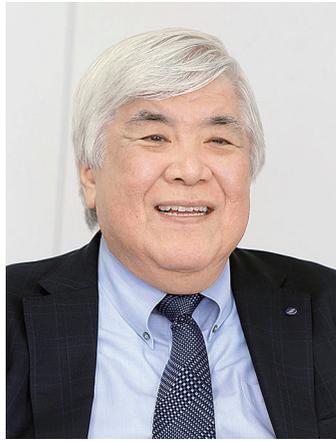


2026年5月期の業績はほぼ計画通りに進捗している。中期経営計画が始動し、基幹事業の拡充や新領域の開拓などに力を注いでいる。長期ビジョンで掲げる31年5月



## E・Jホールディングス 小谷 裕司社長

期の業績目標を、中期計画の期間中に、3年前倒しで達成したい。

基幹事業は、重点分野の国

土強靱化やメンテナンスなどで受注拡大を目指す。土木構造物の基礎を構成する地質調査がますます重要になるだろう。24年にグループへ迎えた東京ソイルリサーチとのシナジー（相乗効果）が発揮できている。地質調査後の設計な

ども含めホールディングス全体の連携が深まった。河川・港湾の気候変動対応など水関連分野も強化したい。

メンテナンスは橋梁とトンネルに加え、無電柱化や舗装上下水道など対象構造物の拡大を視野に入れている。老朽ストックの増大に対処するには、地方ゼネコンとの連携も必要と考える。公共発注機関の技術者が減

### 業績目標前倒し達成目指す

っている。業務や設計・施工などの分離発注は見直され、発注者を補完するCM（コンストラクションマネジメント）方式などが増えるとみている。引き続きさまざまな業務にワンストップで対応できる組織づくりを推進する。M&A（企業合併・買収）はその一手になり得る。社会構造の変化を見据えた長期ビジョンの見直しも検討していく。海外は実績があるアジアでの事業拡大や営業拠点・生産拠点の現地化を推進する。

